

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	生涯学習課
職	課長
氏名	篠原 恵美子

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
生涯にわたる学習やスポーツ活動により、心身ともに健やかで、心豊かな人づくりをめざすとともに、一人ひとりの個性や適性に応じたきめ細かな教育を押し進め、基礎的・基本的な知識・技能はもとより、自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身につけた、未来を切り拓こうとする気概あふれる積極果敢な人づくりを目指します。	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値ほどのような水準か					
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか					
① 県民一人ひとりが、自分らしい学びを通し、新しい自分を見付けるとともに、様々な出会いや交流をすることで、自らの成長と自己実現を図り、その成長を生かすことのできる社会づくりを目指します。 ② すべての教育の出発点である家庭や子どもたちの活動の場である地域が学校と連携し、様々な形で教育活動に協力し合うことを通して、相互理解と信頼を深め、互いに教育力を高め合い、社会全体で子どもたちを健やかに育てることを目指します。 ③ 本県の豊かな風土や、そこで培われた多彩な文化、歴史など、石川ならではの教育資源を活用し、一人一人が様々な体験活動を通して学ぶ喜びや楽しさ、手応えを実感するとともに、郷土石川を愛し、誇りに思う意識をはぐむ教育を展開します。さらに石川を自己存立の基盤としながら、多様な文化が織りなす世界の国々や地域の中で、主体的に活躍できる視野の広い行動力のある人づくりを目指します。						
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する					
	目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
	①県立生涯学習施設年間利用者数	379,906人	H29 年度	380,000人	R7 年度	石川県新長期構想(平成28年3月改定)
	②「げんきいっぱいカード」目標達成者数	8,501人	H29 年度	9,000人	R2 年度	第2期石川の教育振興基本計画(平成28年3月策定)
	③「いしかわ子ども自然学校」参加者数	7,364人	H29 年度	6,000人	R2 年度	第2期石川の教育振興基本計画(平成28年3月策定)



30年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①県民大学校の充実	県民の多様な学習ニーズに対応するため、市町、大学、各種団体等と連携し、県内全域で教養、文化、健康など様々な分野の講座を開設する「県民大学校」の運営や生涯学習センター主催の県民大学校講座を実施し、県民に学習機会を提供する。
①図書館マルチ検索・予約システムの運営	県内図書館の蔵書を一括して検索できる横断検索システムの運用や県内市町立図書館等の中で図書の貸し借りができる相互貸借等を実施し、非来館型サービスの充実を図る。
②心の教育の推進	社会全体で、子供の豊かな心を育む気運の醸成を図るため、学校・家庭・地域が連携し、「心の教育」の充実に向けた各種事業を展開する。
②親学び講座「肝心かなめの1年生塾」の開催支援	家庭の教育力の向上を図るため、小中学校入学前の子どもの持つ保護者に対して、規則正しい生活リズムの重要性や、発達段階に応じた親の役割、子どもとの関わり方などを掲載した親学び冊子を配付するとともに、県内全小中学校において親学び講座を実施する。
②インターネット等の適正利用の推進	インターネット等の適正利用を推進するため、保護者に対して、ネットに潜む危険性から子どもを守るための啓発パンフレットを配付するとともに、県内全ての公立小中高等学校において、このパンフレットを活用した学習会を実施し、啓発に努める。
③いしかわ子ども自然学校の実施	白山青年の家及び少年自然の家を中心に、県内の関連施設や市町と連携して「いしかわ子ども自然学校」を開校し、石川の豊かな自然をいかした自然体験・宿泊体験の機会を提供することにより、子どもの自然を大切にしたい心やたくましく生きる力を育む。
③海洋チャレンジプログラムの実施	海洋体験活動を通して、小中学生に石川の海の豊かさや自然の摂理を実感させ、自然体験活動や環境に関する教育の充実を図る。